

# 子ども読書支援センターニュース No.213

2022. 2. 28

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行  
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：3月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組  
《2月のおはなし会で使った本》

『ゆたんぼくん』 おおたか蓮/脚本 童心社 2012

『のっているのはだあれ？』（大型絵本） 新井洋行/作・絵 偕成社 2022

『よちよちあかちゃん』 中井はるの/作 教育劇画 2011

『てぶくろ』（大型絵本） エウゲーニー・M. ラチョフ/え 福音館書店 2020

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：  
a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『あなたのおなまえは？』 きたやまようこ/さく あすなろ書房 2021.12 ¥900

「あなたのおなまえは？」 「りんごです」 「うさぎになれるりんごです」 名前を聞かれた食べ物たちが、得意なことなんかも答えてくれる、食事が楽しくなる赤ちゃんに身近な生活習慣の絵本。すききらいしないでみんなおいしく食べられるかな？うさびよんのせいかわ絵本シリーズ『こっちとこっちどっち？』（きがえ）『とんとん「はいってます」』（トイレ）の全3冊。

＜絵本－3, 4歳から＞

『こんなかお、できる？』 ウィリアム・コール/さく トミー・ウンゲラー/え こみやゆう/やく 好学社 2021.12 ¥1600

夜寝る時間になると、あれこれいってなかなか寝ようとしないう女の子フランシス。そこでパパはこんなゲームを考えた。パパがいうあんな顔、こんな顔をフランシスにやってみせてもらうというゲーム。こんなにやるって怒った顔、まぬけでとんまな顔、うれしくて幸せな顔、つんとすました顔、フランシスはなんなくやってみせ…。おやすみ前にぴったりのユーモラスな絵本。

＜絵本－5, 6歳から＞

『おばあさんとトラ』 ヤン・ユッテ/作・絵 西村由美/訳 徳間書店 2021.12 ¥2000

散歩が大好きなヨセフィーンおばあさんは、ある日雪の森でトラと出会う。おばあさんはトラをうちにつれて帰りすっかり仲良しに。町の人たちも最初は驚いていたものの、だんだん慣れてきてみんなトラのことが好きになる。ところがある日、トラがホームシックにかかってしまい…。おばあさんとトラの友情を描いた、カラフルでほのぼのとしたタッチの心あたたまるオランダの絵本。

『バスにのるひ』 はせがわさとみ/作 nakaban/絵 絵本塾出版 2021.11 ¥1500

山のきつねの子に人間の町に住むおじさんから海に遊びにおいでと絵はがきが届く。早速返事を書くと、停まるバス停の数だけ木の実が入った小包が届く。バス停に停まるごとに木の実をひとつづき、これならまちがえはないなときつねの子は人間に化けてバスに乗り込み海へと向かうが…。初めてバスに乗る時のワクワク感やドキドキ感、不安な気持ちを情緒豊かに描いた冒険絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『王さまのお菓子』 石井睦美/文 からはしれい/絵 世界文化ブックス 2021.12 ¥1500

フランスで新年に家族が集まった時に食べる「王様のお菓子」。パイの中には、フェーブと呼ばれる小さな陶器の置物が入っていて、それが当たった人は一年間の幸福が約束される。パイの中のフェーブの人形ミラーは、自分が誰に当たるのか気になってしょうがない…。フランスの伝統菓子「ガレット・デ・ロワ」を題材に、誰かを想い、幸せを願う優しい気持ちを描いた美しい絵本。

＜絵本－小学校中学年から＞

『ボクサー』 ハサン・ムサヴィー/作 愛甲恵子/訳 トップスタジオHR 2021.11 ¥1800

父さんが形見に遺したグローブ。ボクサーはそのグローブで何でも打ちまくった。打つものが何もなくなった時ボクサーは思った。グローブの刺繍のハートから母さんの手の温もりが伝わり父さんの拳は力を持ち、ただ皆の笑顔のために打ち続けたんだと。ある日海辺で少年に出会ったボクサーは…。力強い画風のイランの絵本。2019年ブラチスラバ世界絵本原画展グランプリ受賞。

『海峡のまちのハリル』 末沢寧史/文 小林豊/絵 三輪舎 2021.10 ¥2700

「エブル」という伝統的なトルコのマーブリング紙を作る職人の孫ハリルと、日本人の貿易商の息子たつきは海峡のまちで出会う。伝統絵画「エブル」を通じてお互いの国の文化をつなぎ、尊敬しあい友情を深めあふふたり。20世紀初頭のイスタンブールを舞台にまちの息づかいやトルコと日本のふたりの少年の交流を瑞々しく描く。深みのある落ち着いたタッチで描かれた美しい絵本。

＜読み物－小学校低学年から＞

『むかしむかし』 内田麟太郎/文 ザ・キャビンカンパニー/絵 文溪堂 2022.2 ¥1400

太陽の神さまが大きな岩のまげにかくれてしまった物語「天の岩戸」、頭が八つある大きなへびとの戦いの物語「ヤマタノオロチ」、傷ついたうさぎとそれを助けた神様の物語「いなばの白うさぎ」の3作を収録。詩人であり童話作家である著者による低学年にも分かりやすい文章で書かれた日本神話。漢字にはすべてルビつき。人気絵本作家による挿絵も見ごたえあり。

＜読み物－小学校高学年から＞

『サクラの川とミライの道』 稲葉なおと/作 中村至宏/絵 講談社 2021.12 ¥1350

近所のコガモ川にフタをし道幅を広げる計画があることを知った小5の映太郎。川のまわりや中で生きている植物や魚のことを考えると賛成できないが、お母さんは歩行者にとっては助かると言う。いったいどっちがいいのか？映太郎は、岡山からの転入生と一緒に考え始める。SDGsが掲げる目標や理由について、お話を通して理解できるよう作られた「おはなしSDGs」シリーズ。

『あしたへの翼 おばあちゃんを介護したわたしの春』 中島信子/著 汐文社 2022.1 ¥1400

2020年4月小6になった理夢。コロナで学校が休校になり、友だちにも会えず家から出ることもできない。祖母との折り合いが悪い母親と姉は家を出ていき、長距離トラックの運転手の父親はほとんど家におらず、寝たきりの祖母の世話をほぼ一人でやる毎日。おむつの処理について近所の人から苦情を言われることも。社会問題である「ヤングケアラー」を子どもの視点から描く。

<読み物—中学生から>

『恋とシェイクとバレンタイン』 神戸遥真/著 講談社 2021.12 ¥1400

私、衣笠詩織は高校1年生。高校入学以来、しっかりと作り上げたキャラでネイルアートにいそしんでいる。お小遣いの足しにするために、冬休みを機にEバーガーでバイトをすることに。優しい先輩に恵まれてバイトがスタートしたかに思われたが…。仕事の楽しさや新しい出会いを通した詩織の成長物語。日本児童文芸家協会賞受賞の『恋ボテ』シリーズの続編。

『博物館の少女 怪異研究事始め』 富安陽子/著 偕成社 2021.12 ¥1400

花岡イカルは、大阪の古物商の娘。立て続けに両親を亡くし、母親の遠縁を頼って、15歳で東京上野へ。訪れた博物館で出会った館長の計らいで、古蔵で怪異研究をしている前館長のトノサマの助手として働くことに。長崎から届いた「黒手匣」の盗難に気づいたことから、収蔵品にまつわるトラブルに巻き込まれていく…。明治期の博物館を舞台にした、謎解きミステリー。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『ガンディー』 マリア・イサベル・サンチェス・ベガラ/文 アルペール・アラジャス/絵 竹中千春/訳 ほるぷ出版 2021.12 ¥1800

インドで生まれ、幼少より母親からいつも正直者であるよう教えられてきたガンディー。英国で勉強し、南アフリカでインド人の権利を守るために働く。帰国後、のちに「インド国民の父」と呼ばれるようになったガンディーを描いた伝記絵本。低学年からでも読めるよう、やさしい文章で書かれた「はじめてよむ伝記えほん」シリーズ。より理解が深まる巻末の角解説は中～高学年向け。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『命を救う心を救う 途上国医療に人生をかける小児外科医「ジャパンハート」吉岡秀人』 ふじもとみさと/文 偕成出版社 2021.11 ¥1500

国際医療ボランティア組織「ジャパンハート」を立ち上げ、ミャンマーをはじめとする東南アジアの国々の貧困層に医療をとどける活動をしている医師吉岡秀人。海外での医療活動を目指して精進した青年時代や、十分な医療機器がない中で挑んだ脳腫瘍や重度のやけどの手術の様子を伝える。「病を治すだけではなく人生を救う」との熱い思いで奔走する小児外科医の挑戦の日々を描く。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『ぼくのわたしの著作権ずかん』 森田盛行/監修 ほるぷ出版 2021.12 ¥4500

「著作権ってなに？」「運動会の応援旗にマンガのキャラクターを描きたい！」「新聞の切り抜きを教室に掲示してもいい？」自由に楽しく作品を作り出すことができるのは、著作権法という法律に守られているからこそ。学校生活や家庭生活に役立つ著作権の正しい知識を、マンガやイラスト、クイズを通してわかりやすく解説する。「見る知る考えるずかん」シリーズ。

<ノンフィクション—中学生から>

『10代の妊娠 友だちもネットも教えてくれない性と妊娠のリアル』 にじいろ(中谷奈央子)/著 高橋幸子/監修 合同出版 2021.12 ¥1400

元公立高校の養護教諭で、現在は性教育講師・思春期保健相談士として活動中の著者によると、ネットの情報に頼るあまり、誰にも相談できないケースが増加しているとのこと。妊娠にまつわる基本的な知識から、受診時の費用や妊娠に関わる制度まで幅広く取り上げ、イラストや図を用いてわかりやすく解説。性に関することで困ったときの相談窓口も紹介。巻末に用語解説あり。

『よみがえれ、マンモス！ 近畿大学マンモス復活プロジェクト』 令丈ヒロ子/文 講談社 2021.12 ¥1400

永久凍土からミイラ化したマンモスが発見されたニュースは記憶に新しい。氷河期に生息し、絶滅したマンモスを復活させようと、本気で取り組んだ科学者たちの日々を、『若おかみは小学生！』シリーズの著者が描く物語。生命科学に携わる人々の苦悩を垣間見ることができる。専門用語などを図とともにわかりやすく解説するコラムがあり、また、全漢字には読み仮名あり。

<研究書>

『ぐりとぐらのたまご』 ブルーシープ 2021.12 ¥1200

1963年の発表以来、長く読み継がれている絵本シリーズ『ぐりとぐら』。中川李枝子さんのつぶった言葉と山脇百合子さんの絵を、「1 おいしいもの」「2 いえのなか」「3 そとのせかい」に再編し、料理・陶芸・雑貨・植物の専門家からのコメントを交えた構成。中川さん作詞のアニメ映画の主題歌『さんぽ』も掲載。11×15cmのサイズも愛らしい1冊。

『児童の読書力を形成する読書日記 読書指導法の改善と個の変容を目指して』 細恵子/著 溪水社 2021.11 ¥2500

広島県の公立小学校の教諭だった筆者が、読書指導と国語科における指導とを結びつけた実践記録をまとめた研究書。大村はまの「読書生活の記録」を踏まえ、筆者が感じていた課題を改善するべく考案した「読書日記」を利用した実践を、授業開きから振り返りまで紹介。日記の記述に使う語彙例や教師の評価文例などが掲載されており、すぐに活用できる。

『戦争と児童文学』 繁内理恵/著 みすず書房 2021.12 ¥3200

日本児童文学者協会会員でもある著者が、雑誌『みすず』の連載を加筆・修正した評論集。様々な形で戦争に翻弄される子どもが主人公の作品を取り上げて10章に構成し、作者の他の作品と絡めながら、フィクションの中でどのように戦争を伝えようとしているかを論述。巻末に、本文中で取り上げた全作品と、戦争をテーマにした児童文学作品の一覧あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

